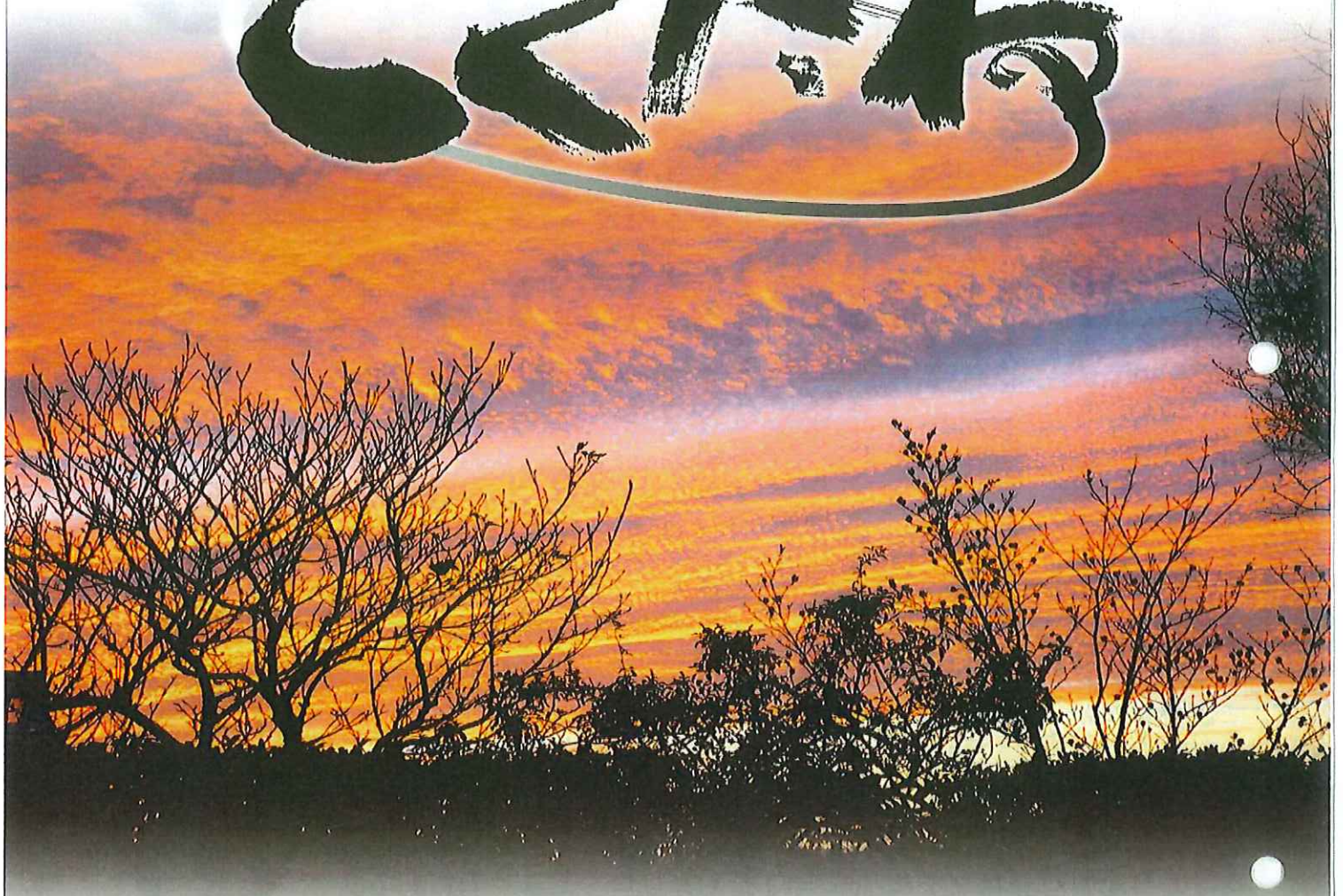


とくだね



「夜明の空」 撮影:徳田 元

目次

◆新年号のごあいさつ	2~3	◆第9回鹿屋肝属地区脳卒中市民公開講座 「みずから考える脳卒中」を開催	6
◆徳田理事長、市民表彰を受賞 日本医療機能評価機構「病院機能評価」認定について	4	◆第23回消火競技大会／職場体験学習	7
◆松下病院認知症疾患医療センター研修会	5	◆ペット紹介／新入職員の紹介／編集後記	8

医療法人秋津会

理念

地域と共生し、活力ある医療をめざします。

基本方針

- 一、 脳疾患の急性期医療を充実させ地域住民の救急救命に貢献します。
- 一、 地域医療連携を深め患者様の社会生活・在宅復帰を支援します。
- 一、 患者様の権利を尊重し、説明と同意に基づいた安心と満足の医療を提供します。
- 一、 職員の職業倫理、法令遵守の精神を涵養して、組織を支える人材の育成に努めます。

職業倫理規定

当院職員は、医療人としての社会的使命、職責の重大性を認識し、当院すべての職種に求められる職業倫理を以下のように定めます。

- 一、 医療を受ける患者様の権利と人格を常に尊重します。
- 一、 ホスピタリティの心で患者様の立場に立ち信頼されるように務めます。
- 一、 知識と技術の習得向上のために、常に生涯学習を行います。
- 一、 他職種との相互尊重で協力関係を保ちチーム医療を向上させます。
- 一、 医療の公共性と安全性を重んじ、法規則を遵守した運営に努めます。

患者様の権利と責務

- 一、 公平な医療を受ける権利
- 一、 十分な説明を受ける権利
- 一、 医療に関して自ら決定する権利
- 一、 個人情報保護と開示を求める権利
- 一、 当院の最善の医療を受ける権利
- 一、 良い治療のために私たち医療従事者と協力する責務



理事長
徳田 元

新しい年を迎えて皆様にはお健やかに過ごしのことと思えます。

昨年は鹿屋市医師会の有難いお計らいを頂いて因らずも誠に嬉しく光栄な鹿屋市賞を頂くことができました。古江小学校の校医を27年続けさせて頂いた功績と、脳神経外科医としての専門の功績に対して頂いたものです。この賞を受けられましたのは私一人の功績によるものではなく、現在まで徳田脳神経外科病院で一緒に働き共に苦勞を分かち合ってきた職員へのご褒美だと思っております。

小生が医師を目指したのは小学6年生の時、祖母が私の家の留守番を託され、夜にトイレに行き帰って来ると同時に倒れ込み2-3日後に意識が戻ることをなく亡くなった事でした。今考えますとおそらく脳出血だったと

思われます。そのような状況のなかで医師となり祖母のような病人を助けたいと思ったことが、この道を歩む決心をした切っ掛けでした。今思いますと、小生の人生で一番嬉しかったことはその想いを貫きまして幸いにも熊本大学医学部に合格した。サクラサクの電報を受け取った瞬間でした。その時はこんなに嬉しいことがあるものかと思つたことを覚えております。

医師として研鑽を積んだ時代を含め、開業しての30年余り、常に人に支えられてこられた事をふり返り、小生は大変幸運な人生だったなと感慨深く思っているところ です。

医療環境も随分と変わってきましたが、今後も職員と共に人の心に寄り添い地域に根ざした脳神経外科専門病院としての役割を果たして参りたいと思えます。

昨年からの病院の新築計画が動き出しましたことをご報告申し上げます。

皆様にとつて新年が幸多い年でありますようにお祈りして居ります。



院長
諸木 浩一

一年の始まりに、気持ちも新たにされておられると推察いたします。

昨年を振り返りますと、自然災害では、統計史上最も多い猛烈台風や、逆走台風の発生、中国地方での大水害、あまり予想も出来なかつた災害が多く発生しました。その原因として、温暖化の影響も否定できないと言われています。しかし温暖化の発生原因の多くを作り出しているアメリカは、温暖化を否定し、国際会議からの離脱を表明しています。

世界の大国では、自国保護主義のイデオロギーが台頭しています。安全保障・経済の対立は、徐々に全世界に影響を及ぼして来ているようで、先の見えにくい状況になってきています。

さて、私たちの日常生活にとって大切な医療体制についてですが、国の施策に基づき県の保健福祉行政において、地域医療計画の推進が図られています。その内容の1つは、5疾病(がん、脳卒中、心血管疾患、糖尿病、精神疾患)への医療体制作りです。

平成19年に医療連携体制の構築を目的として改正医療法が施行されましたが、医療計画は、国の政策の一方的な押し付けに従うものではなく、地域の実情を十分に反映し、適切な医療連携を構築することが出来るものでなければなりません。そこで、私たち脳疾患を診る施設が関わ

る脳卒中医療体制作りにおいては、鹿屋肝属地区の脳卒中を考える会(従来急性期医療機能施設と区分されていたところを更に細分化し、初期対応施設、急性期医療機能施設に分け公表することになります)。

脳卒中の中でも脳梗塞が半数以上を占めますが、初期対応施設では脳卒中の診断が早期にでき、脳梗塞に対するtPA治療ができる。または急性期病院と速やかに連携がとれる施設と区分されました。また、急性期病院は、tPA治療および血栓回収が施行できる施設に限定されます。このことで救急隊による搬送手順も速やかにになり、早期の確な治療が期待できることとなります。

この体制づくりは、厚生労働省が検討会を立ち上げ、脳卒中及び循環器系疾患の新たな診療体制の整備に向けて行っている「初期対応を行う施設」「専門的医療を行う施設」「高度な専門医療を行う施設」の3つに類型化する案に沿ったものです。今後さらに高度専門施設の集約化も進められることが明らかです。新たな医療基準に沿ってリストアップされた施設は、鹿児島県のホームページにより公表されることとなります。

また最近では、高齢者ドライバーの事故が後を絶ちません。免許更新時には適正検査が行われ、認知障害が疑われる場合は、公安委員会より診断書の提出を求められます。認知機能の判断に関して医学的判断に日常生活の状況も加味する必要があります。近況を良くご存じであるご家族の情報も必要です。

住民の皆様と共に、脳疾患の発症や予防も含めた医療の提供を考えております。今年もよろしくお願ひ申し上げます。



副院長
橋口 昭人

あけましておめでとーござい
ます。

2018年は西日本豪雨・北海道地震の自然災害に加え、日産・ゴーン会長逮捕や働き方改革・外国人就労の関連法整備等の重大ニュースがありました。個人的には、私の愛する某国産自動車メーカーの不祥事も非常に残念なニュースでした。いわゆる識者によると、その原因・解決策として「コーポレートガバナンス(企業統治)」の欠如と「コンプライアンス(法令遵守)」の重要性が指摘されています。企業統治の基本原則は「適切な情報開示と透明性の確保」であり、難解なカタカナ用語を用いるまでもなく、法令遵守と併せて、組織が継続・発展するための必須事項とされています。私の現在の主戦場である手術室で例えるならば、手術を受けられる患者さんへの慎重な適応検討と術前からの十分な説明、さらには手術に関わるスタッフ全員の認識共有、そして方が一何らかの術後合併症が起きた際には真摯に経過・状況の説明を行い、全力で事態修復に向

かう、といった基本姿勢と言えるのではないだろうか。

新天皇が即位され、新たな元号となる今年2019年には、それに合わせた訳ではありませんが、当院の新築・移転計画がいよいよ本格的に始まります。全国的にも稀有な高齢化先進地域である大隅半島の実情に即しつつ、当院を診療される皆さんが安心・快適な診療を受けられるよう、安全で機能的な病院に生まれ変わる予定ですが、その為にもスタッフ全員で知恵を合わせていく所存です。ただし、どんなに立派な建築物ができたとしても、前述の企業統治や法令遵守の基本原則を忘れてしまえば、本末転倒となってしまう。当院開設以来、理事長が病院の心として大切にしている「ホスピタリティ(親切にもてなす意)」と併せて、数年後の新病院完成までに当院の組織風土としてさらに熟成していければと考えています。

私の愛車の快適な走行と心地よい振動のおかげで、例の不祥事問題を思い出すことは皆無ですが、この機会を組織改革の好機として、件の自動車メーカーには益々発展して欲しいと切に願っています。ホスピタリティと物づくりは我々日本人の得意とする分野のはずですから。

あけましておめでとーござい
ます。皆様はどんな新年をお迎えですか？

昨年は第三者機関である日本医療機能評価機構の病院機能評価(3rd G. Ver. 2.0)受審を無事に終え、高評価を頂くことができました。患者様の立場からの安全・感染防止の取組み、良質な医療が安全に確実に実践され、各部門での機能が発揮されていることと、理念達成に向けた組織運営や管理などの審査が行われました。受審をすることで、病院組織の改善や、業務内容や看護手順など基本的な事を改めて見直す機会となり、さらにより良い医療や看護を提供していきたいという気持ちが強くなりました。

看護スタッフは、「患者様の人權を尊重し、安心・安全な看護をめざします」と看護理念に掲げ、日々取り組んでおります。



看護部長
加治木 ゆかり

前年に引き続き、「人を援助する」とは、何を、どのようにすることかという対人援助を学び深めることが出来ました。患者様やご家族の思い、願い、価値観とは何か、患者様の苦しみに焦点を当てた考え、ケアによってその苦しみを和らげ、軽くし、なくするというスピリチュアルケアを学び、さらに患者様の思いを引き出し、その思いに寄り添いながら、質の高い医療・看護に結びつける事ができるよう今年も取り組んで参ります。

また2025年の超高齢化社会に向けて、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解し、医療と介護・福祉をつなぐ看護の連携強化が求められています。切れ目のないケアが引き続き同じように行えるよう、地域施設の看護管理者と情報交換を行いながら体制づくりも行っていきたいと考えます。

今後も、地域の皆様に信頼され、安心して頂ける医療・看護の提供ができるよう、より一層努力して参ります。

今年一年が皆様にとりまして、幸せで実り多い一年となりますよう心よりお祈り致します。

徳田理事長、市民表彰を受賞!

平成30年11月9日に鹿屋市役所で市民表彰式があり、徳田理事長が社会福祉部門で表彰されました。

徳田理事長は、昭和60年に鹿屋市大手町に徳田病院を開院して以来、急性期医療からリハビリテーション、在宅支援までを含め、脳疾患を扱う専門的病院として大隅地域住民への医療の提供と脳卒中予防の啓蒙に努めてられました。

また、昭和60年から平成25年まで学校医として児童・生徒・教職員の健康の保持・増進に努め、平成4年から平成22年まで鹿屋市医師会の理事・監事を務めておられます。

地域医療の向上と公衆衛生の普及・増進に多大な貢献をされ、鹿屋市政発展のために功績が特に顕著であったとして栄えある表彰となりました。

徳田理事長、受賞おめでとうございます。今後のますますのご活躍を祈念致します。



日本医療機能評価機構 「病院機能評価」認定について

この度、公益財団法人日本医療機能評価機構により「病院機能評価」の認定を頂きました。

平成15年から5年毎の審査を受け今回が4度目の認定となりますが、6月25～26日の2日間、4名の評価調査者(サーベイヤー)が、4領域89項目を中立・公平な立場から評価されました。

受審にあたり数年前から事務局を中心に準備を開始し、病院全体で取り組んできた結果ではありますが、頂いた認定結果に甘んずることなく、安心・安全・信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、努力して参りたいと思います。

(6月25～26日受審風景)



松下病院認知症疾患医療センター 研修会にて講演

この度、霧島市の松下病院様主催「認知症疾患医療センター研修会」におきまして、橋口副院長が「脳の健康管理～生活習慣病のその先に～」をテーマに講演させて頂きました。研修会には霧島市内の医療機関や居宅介護支援事業所等から約80名の参加があり、講演終了後にはご質問も頂きました。今回講演の機会を頂きました、医療法人 仁心会 松下病院様に深く感謝致します。誠に有り難うございました。



○ 脳卒中出前講座について ○

当院では、地域の皆さまに**脳卒中**やその原因となる**生活習慣病**についてご理解いただくことを目的に、脳神経外科医が講師として、ご希望の地域にお伺いする**「出前講座」**を開催しています。

脳の専門家による健康を保つ秘訣や、いざという時に役立つ知識を学んで日々の健康づくりにご活用下さい。



講師：徳田脳神経外科病院
副院長兼診療部長
はし ぐち あき ひと
橋 口 昭 人

～出前講座開催について～

【日程】 出来るだけで希望に沿うように致しますが、講師の診療や手術等により、調整させて頂く場合があります。

【時間】 質疑応答含め、約1時間程度

【場所】 地域の皆様が参加しやすい場所(公民館等)をお願い致します。

【費用】 無料

※講演に必要な映像機器等は当院より持参します。

お問い合わせ

徳田脳神経外科病院 電話：0994-44-1119
地域医療連携室 担当：安楽隆一

第9回鹿屋肝属地区脳卒中市民公開講座 「みずから考える脳卒中」を開催

10月13日(土)鹿屋市中央公民館にて、鹿屋肝属地区脳卒中市民公開講座「みずから考える脳卒中」を開催致しました。脳卒中の発症並びに再発予防、脳卒中に関する正しい知識の普及、啓発を目的に年1回開催しておりますが、今回は3つの講演に合わせて、特別講演として垂水中央病院の竹中俊宏院長先生にご講演頂きました。

講演

●30歳代からの健康支援 ～「30代健康きっぷ事業」の取り組み～

鹿屋市役所 健康増進課 保健師 加藤玲奈 氏

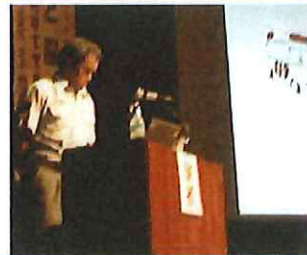
特定健診受診者はほとんどが60歳以上で、その結果は血糖や肥満、脂質、肝機能の有所見者割合が高値である。早期からの健康管理、生活習慣病予防の意識付け、健康的な生活習慣を身に付けることを目的に、平成26年度「30代健康きっぷ事業」が開始された。



●救急搬送の現状について

大隅肝属地区消防組合 東部消防署 救急係長 前原健作 氏

大隅肝属地区消防組合管内の人口推移は年々減少している中、救急搬送件数は年々増加している。傷病程度別搬送人員では、軽症患者の搬送も含まれていることから救急車の適正利用が必要である。



●脳卒中の診断から治療まで

県民健康プラザ鹿屋医療センター 脳神経外科部長 平原正志 先生

脳卒中を引き起こす原因となる生活習慣病を防止するためにも、適度な運動(男性 9000歩、女性 8500歩)や早寝早起きの習慣が必要である。脳卒中治療は1分1秒が大事であり、発症したらすぐに受診が必要である。最近では血栓溶解療法も推奨されている。



【特別講演】

●「心臓病と脳卒中：健康長寿実現に向けてできること」

垂水市立医療センター垂水中央病院 院長 竹中俊宏 先生

心源性脳梗塞は発症すると寝たきりや命にも関わる。その原因となる心房細動の予防には、危険因子を減らすことが重要である。その対策として、①体重を減らす、②食事量を減らす、③塩分摂取量を減らす、④運動不足を減らす、⑤ストレスを減らす、⑥タバコは止める一が挙げられる。



参加者は113名と年々減少傾向にありますが、参加された方々からはご好評頂きました。

- ・健康きっぷ事業の取り組みは興味深い。身近な人にも広めたい (20代男性)
- ・救急搬送の現状など初めて聞くことなので、大変勉強になった (70代女性)
- ・診断から治療まで大変分かりやすく、広くに渡って話を聞けたので良かった (60代女性)
- ・血管を若く保つには色々ありましたが、現時点では症状が無く危機感が無い。何かしなければというきっかけになりました (40代女性)

☆来年秋には第10回目を開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。☆



第23回消火競技大会へ参加しました!

事前に練習や打ち合わせをしていましたが、いざ本番となると予定と違う行動を取ってしまい焦りました。実際の火災の現場では、もっと焦ってしまうのではないかと不安になりました。避難訓練の際は、本当に火災が起きていると思って取り組まなくてはいけないと改めて感じるきっかけになりました。結果としては、平成最後の優勝を持って帰ることができ、安心しました。

● リハビリテーション室 玉利 琴子 ●

今回、消火器の部で準優勝、屋内消火栓の部で優勝という結果を出すことが出来て、非常に良かったと思っています。また、歴代の先輩たちが残してきた連覇記録を継続させることができ、一安心しているところです。大会参加を通して、消火器や消火栓の使用方法、簡易担架の作成など多くの事を学べました。今回の経験を生かして、実際に火災が起きた際にも対応できるようにしていきたいです。

● リハビリテーション室 竹田 憲太郎 ●



練習をほとんど出来ない状態での参加でしたが、とても良い経験が出来たと思います。

消火器や消火栓を使用することはあまりないと思いますが、今回の経験を今後活かしていきたいと思っています。

● 2階病棟 池邊 志穂 ●



消防訓練に参加させてもらって、普段使用したことのない消火器や煙の中から人命救助する場面があり、すごく貴重な体験ができました。また一緒に参加した相手との声かけやチームワークが大切であり、日頃の仕事でも共通している部分が見えたので、報告・連絡・相談を今まで以上に大切にしていきたいです。

● 3階病棟 満重 麻里奈 ●



職場体験学習

今回私が一番驚いたのが、リハビリテーション室です。私は最初動かないところを動かせるようにする場所だと思っていましたが、それだけではなくスプーンやフォークをその患者さんに合った形、長さ、硬さになるように工夫したり、脳のトレーニングをしたりするなどのサポートをしていることが分かりました。

印象に残ったことは、コミュニケーションが大切だということです。患者さんが1人いると駆け寄って話しかけたりして、コミュニケーションを取っていました。話しかけることだけでなく、患者さんが聞き取りやすいようにはきはき大きな声を出しているところを見て、コミュニケーションの大切さを実感しました。

たくさんの職場の皆さまから、その仕事を教えていただきました。私にとって、とてもためになるお話が聞けたので良かったです。病院は色々な職種の人たちが関わり合っていて、たくさんの患者さんを助けることができるのだなと思いました。将来自分がなりたいたいのもの選択肢が増えました。じっくり考えて、将来の事を決めていきたいです。

11月13日から15日までの3日間、「職場体験学習」として、第一鹿屋中学校の生徒さん3名の受け入れを行いました。初日には院内での注意事項や各部の説明等があり、院内15部署の各業務を体験していただきました。終了後にお礼文を頂きましたので、一部披露致します。

新入職員の紹介

所属 薬剤部
薬剤師

氏名 藤崎 久美子

趣味・特技 読書、水泳
特技:本を開くとすぐに眠ること。

ひとこと
見たい、聞きたい、知りたい、触りたい?
好奇心旺盛です。
よろしくお願いします。

所属 医療安全管理室
臨床工学技士

氏名 福田 哲郎

趣味・特技
マラソン、料理、食べ歩き

ひとこと
11/1より入職いたしました。臨床工学技士の福田です。早く職場に慣れて、また鹿屋の生活を楽しまたいです。よろしくお願いします。

私のかわいいペットご紹介

「内村トラ」ちゃんです。

200gだった子も
今では4kgになって、
11才ですが
私たちを幸せな気持ちに
させてくれます。
長生きしてほしいです。



【飼主】2階病棟 内村みどり

編集後記

昨年は理事長の市民表彰や病院機能評価など、これまでの功績に対する受賞や認定を頂き、大変喜ばしく、また、実りある1年であったと思います。今年も「猪突猛進」も大切ではありますが、1歩1歩足元を踏み締め、地域医療の発展を目指し、皆様に選ばれる病院でありたいと思います。本年も宜しくお祈り致します。
(安楽)

地域と共に歩み、信頼される病院を目指して

血 外来診療のご案内

診療科目や診療予定表、受付時間などのご案内です。

♡ お見舞い・ご面会

お見舞い・ご面会の受付時間、お見舞いの品目などのご案内です。

脳ドックについて

脳ドックの受診年齢、費用された医師の経験などのご案内です。

採用情報について

各種職種の採用条件や応募方法などの求人情報のご案内です。

この度ホームページをリニューアルしました。スマートフォンやタブレットにも対応し閲覧しやすくなっております。是非ご覧ください。

新URL ⇒ <https://tokuda-hp.com/>



診療予約についてお知らせ

かねてより診療時には長時間お待たせして、大変ご迷惑をおかけしております。当院では、外来での待ち時間を極力短くするために、再来診察のみを予約制としております。外来診療終了時に次回の受診予約を入れますので、医師と相談の上、日時を決めて下さい。その際、診療予約票をお渡しますので、次回の診療時にご持参ください。なお、担当医師の希望がありましたら、遠慮無く外来看護師へ声をかけてください。

病院長

○当院では下記の通り曜日別に外来診療担当医が変わります。

外来診療予定表 (2018.4.1)

	月	火	水	木	金	土
外来診療担当医師	徳田	徳田	橋口	徳田	徳田	ます にて 受付 前 の 月 間 予 定 表
	諸木	諸木	諸木	諸木	諸木	
	新名主	新名主	新名主	新名主	橋口	
	橋口	坪木 (手術日)	坪木	坪木 (手術日)		

*手術、検査などにより変更される場合があります。不明な点がございましたら、受付へおたずね下さい。



医療法人 秋津会

徳田脳神経外科病院

通所リハビリテーション とくだ居宅介護支援事業所

〒893-0011 鹿児島県鹿屋市打馬1-11248-1
TEL.0994-44-1119(代) / FAX.0994-40-3155
<https://tokuda-hp.com>

診療時間

平日 午前8:30~12:00 午後2:00~5:30
土曜 午前8:30~12:30 (土曜日午後・日曜日・祝祭日は休診)

※救急は、24時間365日
いつでも対応いたします。

毎月健康保険証の確認をさせて頂いております。月初めの来院日には保険証の提出をお願い致します。また、保険変更等ありましたら早めに受付までお知らせ下さい。

面会時間 午前10:00~午後8:00

